

- 3
4
5 アイリヤはいつのより早い時間に帰宅した。
6 決して想いは変わらない。
7 それを証明するため、今宵もまた彼女は語る。
8 今日はどんな男と、どのように交わってきたのかを。
9
10
11 「やはり旦那様のお側でくつわける」の時間はなによりの幸せでや
12
13 麻の粗末なシーツの上に腰を降ろすアイリヤ。
14 あなたの体にツツ、と寄り添い、ほっとため息をつく。
15
16 「最近は夜通しじでおつとめをする」とが増えてしまいました。
17 ひと月後の収穫祭に向けて、
18 より多くの子をお国に売らねばと長老も躍起になつてゐるのです。
19 やはり大きな祭事にはお金がかかりますからね」
20
21 そういう彼女の表情には疲れが見える。
22
23 「孕み娘はこの村の財産でもありますし、長老の意向には従わなければなりません。
24 そのせいで旦那様にやみしい想いをさせてしまつてゐるのは、
25 とても苦しく思つてゐるのですが……。
26 ふふ。でも今日は早い時間に帰る」とが出来ましたし、旦那様と一緒にお食事を頂いて、
27 いつもして共に眠れます。とても幸せな」
28
29 無理の混じつたその笑顔は、あなたが愛する妻の、最も美しい瞬間の一いつだ。
30 そして彼女はこう続ける。
31
32 「はあ。毎日が今日のようだつたらいいんないいのか。
33 すみません。私としたことが愚痴ばかり……。
34 しかしやはり旦那様に心配をかけている今の状況はよくない気がしてゐるのです」
35
36 アイリヤは懐にしまつて、蒼くやわらかく珪石をひとつだした。

71 今宵もまた、彼女は他の男の精で孕んでしまった……。
72 ……なぜだらう?
73 自分と幾度交わるうと種が彼女の肚に届く」とはないのに、
74 思い入れも気持ちもない男の精が受け入れられるのか……。
75 そんな悔しい想いを抱えていると、アイリヤは唐突に「んな」とを言い出した。
76
77 「村人がやつてくる夜ではなく昼に、私がなぜ孕む」とができたのか。
78 疑問に思われますよね?
79 その答えですが、ふふ。すみません。思い出し笑いをしてしまいました。
80 今日は「つむより楽しいおつとめだつたものですか?」
81
82 彼女がおつとめの話をする時、「んな風に無邪気に笑う」とがある。
83 あなたはそれを、「つも複雑な心境で見ていた。
84 ああ、こんなにも自分の妻は美しく、可憐で、愛らしいのに、
85 どうして他の男の話をしているのだ。彼女は自分のものなのに、と……。
86
87 「旦那様には申し訳がないのですが、そのような感想が漏れてしまつほど、
88 和氣あいあいとした時間でしたので……。
89 ……それでは、今日のお昼にあつた」とをお話しますね?」
90
91 そして、このものように彼女は語りだした。
92 今日はどこの誰と、どんな風にまぐわい、そして孕んだのかを。
93
94 「私は夜明けまでのおつとめを終えて、一旦我が家に帰り仮眠をとつたあと、
95 孕み所に戻りお相手をお待ちしてしまった。
96 普段お昼にやつてくる村人は殆どおりません。
97 皆それぞれのおつとめに励んでいますから。
98 ですが今日は違いました。まだ日の高い時間に訪問者が現れたのです。
99
100 それは長老と三人の子供でした。
101
102 旦那様も「存知ではないですか? 村のわんぱくの子たちです。
103 先代の孕み娘がお産みになられ、長老の「判断でこの村に残す」とを決めた子じもたち。
104 その中でも特にいたずら好きな彼の。やや、そうですね。
105 この前もお隣のねうちの壁に落書きをして怒られていきました。
106

107 そんな元気な子供たちがなぜだか孕み所にやつてました。
108 子供は孕み娘のいるお社には近づかないようじょく両親に語り聞かせていったのや、
109 なぜ彼らがいに? と不思議に思いました。
110 すると私の疑問を察したのか、
111 長老は子どもたちを連れできたわけを話してくださったのです。
112
113 近頃の若者は田にあまる。
114 今の彼らに何を言つて聞かせても詮無きいとだ。
115 子をつくり産ませることの大切さを知らぬ者、
116 ただ己の快樂を貪るためだけにお前を抱いているだらう。
117
118 しかし幼い頃から教えを説いておけばあはならんはずだ。
119 賴む。おぬしの手でこの子らに子作りについて詳しく教えてはくれないか、と。
120 なるほどと私は思いました。
121 確かに私達は子作りについて、
122 幼い頃からこれといつた教育を施されたりとはありませんでした。
123
124 ですが村の誰よりも人とまぐわい、子を産んでくる孕み娘なん、
125 おぐわうりんについて詳しく子どもたちに教えられぬ。
126 提案自体は素晴らしいものでしたし、
127 引つかかぬりんはあつたにせよ、私は長老の願いを聞き入れぬいに致しました。
128 やる価値はあると私は思いました。
129
しかし長老の、今の若者に何を言つても黒駄だといふ言葉は、
130 私に負担を強いている現状への言い訳のよつに聞いたのも事実ではあります。
131 提案自体は素晴らしいものでしたし、
132 引つかかぬりんはあつたにせよ、私は長老の願いを聞き入れぬいに致しました。
133
134 それから子どもたちへの子作り講義が始まつたのです。
135
136 といつてもお社には黒板のような物を書くための道具はなく、
137 体のしくみについて書かれた本もありません。
138 ですから二人の子供をあの大きな寝床に招き入れ座らせて、
139 彼らの前に立ち、ただお話をする他に授業する方法はなかったのです。
140
141 お社の中に入ったあの子たちは、物珍しそうにあたりを見回したりと、
142 じいじがそわそわとした様子でした。

144 それもそうでしょう。やはりはじめての場所というものはわくわくするものです。
145 そんな彼らの好奇心は私にも向いていました。きっと孕み着のせいでしょう。
146 村の中でああまで上等な衣服を身にまとう女性はいません。
147 初めてみた美しい衣服に目を奪われていました。

148

149 彼らはみな普段よりもおとなしかったので、
150 これはお話をしやすいなと早速私は講義を開始したのです。
151

152 まずはじめに子どもたちに聞きました。子供が生まれる仕組みを知っていますか?
153 三人は首を横に振りました。ああやはり。と私は続けます。
154

155 ではあなたたちのお母様、先代の孕み娘様のお腹の中から生まれた、
156 ということは知っていますか?
157

158 ここの質問には三人ともうんと頷いたのです。
159 なるほどと思いつ私は二度目の質問をしました。

160 ではお腹の中ではどうやって、赤ちゃんが作られるかわかりますか?
161 三人とも首をかしげます。
162

163 これは仕組みからしつかりとお話をねばと、
164 私は着床、妊娠までの過程を易しい言葉で説明していったのです。

165 女性のお腹の中に男性の出した赤ちゃんの種が入ることで妊娠するんですよ。
166 とこのように。しかしここで子どもたちの中にも疑問が生まれました。
167

168 ではどうすれば赤ちゃんの種は女の腹の中に入していくのかという問ひです。
169

170 一人は口の中から? と私に問いました。
171 確かにお子種を口でお受けすることもありますが、それをしても妊娠はしません。
172

173 もう一人はお尻の穴から? と私に問いました。
174 最後の一人は鼻の中から! と勢いよく言いました。
175 そういった行為の方法もありますが、これも妊娠には至りません。
176 わたしはたまらず、ふふつ、笑つてしまつて。
177

178

- 179 すると笑われたのが悔しかったのか、
180 一人の子供は口を尖らせてしまいました。
181 私はいけない、これで興味を失われたら困ると思いつつ告げたのです。
182
183 「ごめんなさいね。では答えを教えてあげましょう、と悩んで……、
184 私は股を少しだけ開き、衣装をめくっておまんこを見せたのです。
185
186 あの状況では、教材は私しかありませんでしたしね。
187
188 リリと赤ちゃんの種が入る」と女は妊娠するんですよ。
189 「衄」と、みな目をまんまるにして驚いて。
190 ふふ、あの表情は、とってもかわいらしかったです。
191
192 それから、彼らはぐるぐる近づき、私のおまんこをじっくり見て鼻息を荒くしてしまいました。
193
194 初めて見る女の性器に、みな興味津々です。矢継ぎ早に質問が飛んできました。
195 「どうして穴が開いているの?
196 「どうして少し濡れているの?
197 「どうしたる、リリに赤ちゃんの種を入れられるの?
198
199 私は一つ一つ丁寧に答えました。
200 穴が開いているのは男の人の性器、おちんちんを挿れるため。
201 濡れているのは、おちんちんを挿れやすくするため。
202 赤ちゃんの種をおまんこにいれるには、おちんちんから赤ちゃんの種、
203 精子を出すのですよ」と。
204
205 そんな説明を聞いて「いやうわ」と二人ともお股をむずむずと寄せはじめた。
206 ついには一人が急におまんこに指を挿れてきたのです。
207 私は「ふ、お叱りましたが子供の勢いというのすばらしいもので……。
208
209 もつ「一人もおまんこに指をいれようと群がり、私は寝床に押し倒されてしましました。
210 やはり三人ともわんぱくの子。
211 私が指を挿れられて声をあげるのが面白かったのですよ。
212 いたずらが始まってしまいました」
213
214 胸をついてみたり太ももをわざつてみたりして私の体で遊び始めて。ふふ。

215 それは普段から村の皆様から受けた扱いに比べると愛のこもるやつで、
216 私には余裕が生まれました。

私には余裕がございました

217

218 けれど私を弄んでいたはずの子供たちの表情はだんだん泣き出しそうな顔へ変わつ
219 ていつたのです。

223 224 そんな拙しやに苛まれていたのでしょうね

۲۷۶

227 ログバヌー→記録→かほりの音→カナル

228 最後に於けるものと、前回の結果の比較

あなたは昼間の孕み処、まぐわう寸前のアイ

人の子供の眼は回詰してゆくのか、たゞ……

232 ~~~~~

おどりながらおねえちゃんが、ぼくにキラキラのくちがわをかけてくれた。

238

おおむろ…………?
ぼくたぬせりれかへ、じんせりんをするんだね。
わせのといわくねや…………。

「……………お股の所がむずむずして、ついでめりひーい気持ちになつてゐるようですね」

ほんとうだ。おちんちんが、いつもよりなんだか、へんなカンジがする。

246 され、なんなんだる……?
247 やつなんぐじ、りのまほで「うのがす」「くわくやで、」でもうしんじ「いかわかなな」……。

248

- 249 「……」
250 「いたずら」めんなやーが聞えれば、私がなんとかしてあげますよ~。」
251 「」
252 「めんなやー。」
253 「めんなやー！
254 「えはバラバラだつたけど、キモチはみんないのしょだ」
255 「せー、よく出来ました。それでは、まず着ているお服を脱いでしまおしちよっか」
256 「せー、よく出来ました。それでは、まず着ているお服を脱いでしまおしちよっか」
257 「めんなやー。」
258 「めんなやー。」
259 「めんなやー。」
260 「うー、みんなにおちんちん、みられたくないなあ……。」
261 「うー、みんなにおちんちん、みられたくないなあ……。」
262 「恥ずかしいのですか？ 大丈夫ですよ。」
263 「恥ずかしいのですか？ 大丈夫ですよ。」
264 「恥ずかしいのですか？ 大丈夫ですよ。」
265 「ほんとう。」
266 「となりのアールくんが聞い。」
267 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
268 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
269 「それにはおねえちやんは、おちんちんのつむーい氣持ちはうまいなりませんよ~。」
270 「それにはおねえちやんは、おちんちんのつむーい氣持ちはうまいなりませんよ~。」
271 「それはやだ……！」
272 「やーのキモチ、やめながしたいー！」
273 「やーのキモチ、やめながしたいー！」
274 「ふくをぬいで、ぼくたちははだかんぼになら。」
275 「みんな、じでおちんちんをかくそうとしたけど、」
276 「おねえちやんはくらをよーじでやりやつする。」
277 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
278 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
279 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
280 「うー、とおねえちやんはうなずいた。」
281 「あー、皆さんのおちんちん、小さくて立派に勃起してしまわねー。」
282 「うー、おちんちんが硬くなつて、こねいと勃起、ところのですよー。」
283 「私のおおんじにおちんちんを挿れる準備が出来た証です」
284 「」

- 285 おねえちゃんがまたおやかこいを畠へいる。
286 おちんちゃんを、お畠へりこ……。
287
288 いれたー！
289 いきなりHルくんがおねえなリバで、手をあげていった。
290
291 「ですが、いきなりおちんちゃんをおもんに押れるのはいい子作りとは畠えません。
292 子作りは子供を作るためにする」とですが、
293 心の交流、人と仲良くなるためにやねりドーウエアがす」
294
295 なかよし、みのり。
296 あたまがほんやりして、ちゃんとわからなかつたけど、
297 たぶんおねえちゃんはあせらなこで、つてこつてるんだといおゆい。
298
299 「やすかのきいへり、じいへりおまんいとおちんちゃんの、
300 もしくは私の間の距離を縮めてこきあしょうね？」
301
302 ほくは、おねえちゃんにおちんちゃんをちかづけた。
303
304 「他の1人せこかり見て、私のマネをしてくだせこね？」
305
306 おねえちゃんのやねらかーいでが、ほくのおちんちゃんをやねる。
307 ゆへへつりしりしゃれで、おしりのおくかくじねじね、
308 ねしきりがもれやうなときみたいになつてく。
309 やめ、ねしきりのくわより、せんせんやりこー。
310
311 じなりのふたりぬ、じいさんでおちんちゃんをこりこりへこへ。
312 へへやうながおしりるさん、ほんとうだ……。
313
314 「このもつこしで勃起したおちんちゃんをしおりへー……。
315 ふらひ、じよつずじよつず。気持わよくなひてやあしたよね。
316 いへこしてお手々でおちんちゃんをしおりこりぬへりんを手口キ。
317 自分でするいわせオナリーモニコモキ」
318
319 おなこー。
320 ほくたか、ドリヤヒムムヒムんだ。

- 429 それでは、せんぬおこもつね。おまではあなたがの……」
- 430
- 431 おねえちゃんのからだが、まへへへはくのかいだにねつてへぬ。
- 432 わねへ、おちんちんのやわいばにまねじまねいとこへ……。
- 433
- 434 「んふふい、せーい、まへへへはく煙入りてこやがやね、ふふい、ふふふふふい」
- 435
- 436 はああ……。ー。
- 437 すりこ、なんたれいへ、りね……。ー。
- 438 おねえちゃんのおがんり、ぬわぬわで、やわゆるー。
- 439
- 440 「せーい。おちんちん、おがんりドアはへはく盥ふりふれまじまじだ。
- 441 気持ちふこですか？」
- 442
- 443 ぼくせうんうん、ひじうなぐ。
- 444 いれもだしたかへたけい、せんせんじなかへた。
- 445 だへへ、りんなわわわふこふりふ、はじめてなんだもん！
- 446
- 447 「せふ。おがんりハメハメはーへても気持ちふこふんたのじす。
- 448 それに私も、んへ、はあんへ。
- 449 おちんちんで気持ちよくなつていてます。ふふい、良こりんがくねじすね？」
- 450
- 451 そつか、おねえちゃんわわわふこふんた！
- 452 うれしい、うれしいなあー！
- 453
- 454 「大事なのは、んへ。
- 455 二人がお互いを思ひやりながら、んへ、はあへ、あんへ、はああんへ。
- 456 おちんちんとおまんこじずぼずぼ、ぬちゅぬちゅとやねいとば、
- 457 はうんへ、んへ、あんへ。
- 458 元気な赤ちやんを作るために必要なりん、んはあへ、ですかね。んへ、よく覚えておい
- 459 てぐだわいね。
- 460
- 461 おねえちゃんがからだをゆふすい、それだけおちんちんがきゅんきゅんしてへぬ。
- 462 すりこ、すりこよおへ。
- 463
- 464 「大人になふへ、んはあ、くうんへ、自分のじばかり考えて、

- 465 はんへ、おわんちんを乱暴に、おまんこに 吐きつける人もいますのが♡
466 あなた達は、んへ、そんな風にはならないでくださいね。あんへ、ふはあへ♡」
467
468 そんなやうにねえちやんをいじめやうがいるなんていふふうに思つた。
469 だつて、いふなにやせんへしてくれねやうに、いたい、いふ、りねふんなんにしちやだめだ
470 めん。
471
472 「私との約束ですよ。んふへ、はんへ、あへ、んふへ、ははあへ♡
473 お一人も……やつぱり見てるだけでは、おわんちん寂しくなつてしまふますよね?
474 それでは……んへ♡ 腰を突き出して、そつです♪
475 リラしておわんちんを両手で握つて……」
476
477 おねえちやんはアールくんのおわんちんと、Hルくんのおわんちんを、
478 わのわほくにしたみたいにしゃりしゃりはじめた。
479
480 「んへしゃ、はあへ、しゃしゃー、しゃーしゃー」
481 みーんなで気持ちよくなりましょうね?
482 おわんちんも、おまんこも仲間外れはなし、じゃよおへ
483 んへ、ああんへ、子供おわんちん、すへへ♪へ元気いはぱいですね。
484 ふふへ、んへ、あへ、んふへ、はんへ」
485
486 ああ、ふたりのおわんちんがおねえちやんにやわらかくやれでね……。
487 わのわほくだけのおねえちやんだつたのに……!
488
489 「あなた達の初めでは、私がとつてもこゝ黙こくにしてあげます。
490 おまんこするりとを大切に、そして大好きになつてゆかうたいですよ♪」
491 ふふへ、じせやはわーいしむへと、気持ちよくなれねよへ♪」
492
493 あれ、おしゃ、おわんちんにちかづけて、なにするんだら?
494
495 「んじゅへ、わよくねじゅへ、わよつわよへ、わよへ、わよーへ。お口で気持ちよくなへ」
496
497 わへ、アールくんのおわんちん、おねえちやんがたべやつた!
498
499 「おまんこでもやつもやつ締め付け」
500 「わよへ、じよのわよへ、ぐるれのれねのへ、わよ、わよれわよへ」

502 あー、つー、ぼくのおちんちんも、おまんこでもちーちゃーにやれてー。
503 うー……、ほんなの、こんなのはじめでだよー！

504 「ちゅー、れのちゅー、ちゅあむれろれー、ぐらちゅるー、ちゅむちゅぱー」
505 「ちゅー、れのちゅー、子供おちんちんかわいです。
506 はむちゅー、子供おちんちんかわいです。
507 はむれー、ちゅじゅるちゅー、ちゅるちゅー、じゅるるー
508 ふふー、りのわのおちんちんも。おまたせしました。○
509 あむじゅー、じゅるちゅぱー、ちゅうー、ちゅぱちゅー、れわれわれー」
510
511 「すー……ー。
512 おねえちやん、おまんこでぼくのおちんちんたぐながら、
513 おくちでもふたりのおちんちんを、ぐらぐらしてるー……！
514
515 「はむちゅ、ぐらちゅじゅー、ちゅまちゅー、あむれろれー
516 ちゅー、あ、でも駄目ですかね？
517 私以外の、孕み娘以外の女人の人といふな」とをしたる
518 ちゅじゅるちゅー、私は日々のおつとめで慣れていますけど
519 普通は、女性一人と男性三人でまぐわいなど、しないのですから
520 あむちゅー、はむじゅるちゅー、ぐらじゅるるー
521 ちゅー、じゅあむれろれー、ふはあつー」
522
523 「うー、いいなあ！
524 ほくおねえちやんにおちんちんぐらぐらしてほしい！
525
526 「ほくおねえちやんにおちんちんぐらぐらしてほしい！
527 「ほく、あなたも私の唇が欲しいですか？ では」
528 あれ、おめめとじて、かお、ちかづけて……ひやあー！
529
530 「ちゅー、ちゅあむちゅー、ぐれのちゅー、ちゅうはむー、れのちゅー」
531
532 「ちゅー、ちゅあむちゅー、ぐれのちゅー、ちゅうはむー、れのちゅー」
533 「あむちゅー、おねえちやんと、ほくおねえちやん、くわけちやん……ー。
534
535 「ちゅー、ちゅあむちゅー、キスをしながらまぐわいーか、ちゅー、キスハメ、ふくらのやよよ」

531

きすはめきもちいいつ！

善也せしレレ善也せしレレ善也せしレレ

E1

おまんこしたから セイフ 層を交わすこのまくわしかたは♪

545

546 一ノ瀬の傳記

おまんこハメハメをするんです
♡

ちゅつ、大人も子供も、みんなキスが大好きなんです♡』

549

おとなずるいなあつ。

こんなにふわふわしておせんせんかしめおわらうのですること

卷之三

554
三國志

555

556 「ちゅ～、れろちゅ～、力を抜いて、やさしーく舌を絡ませるのが、口ツですよ?」

れらちゅ、れられらちゅつ、れられらじゅるぬつ♡

あんつ。あらあら。あとであなた達ともいーつぱい

ですからそむくれないでください」

アーバンと二バーンもはくがシテアリシイアガレ

五
六
三

564

565 それから、ずんずん、じゅるじゅる、じゅぱじゅぱつて

おねえちゃんはぼくたちのおちんちんをきもちよくしてくれた。

でも、だんだん、おちんちんのおくのむずむずがつよくなつてきて……。

308

570 おちゃんちゃんびくびくって、タマタマの中の精子が外に出たがっているみたいですね。♥
571

- 573 おねえちゃんのいこのよりよりが、どんせんせやくなる。
574 ばくば、ふくへ、うーので、えがどかやつてばかしかつたけい、
575 ふたりもねなじみたいだつた。
- 576 577 なんだか、またわよひいわくなつてあわやつた。
578 579 いのむずむずがなくなつた、ほくせんになつちやうんだる……。
- 580 「んへ、はんへ、あへ、あらややへ、んわう、落ち着いて、大丈夫、大丈夫ですかい、
581 あなたはこれから、んああへ、孕み娘の腹に、子種を送り込むといふ、
582 んんへ、崇高な行いをするのです。」
583 あはへ、あへ、んんへ、それはとつての派持ちよくへ、
584 ふうへ、名譽なことなのですからへ、
585 恐れず、ただ流れにまかせて、体を私に、私のおまんこに預けておけばいいのです。」
586 587 そつか、おねえちゃんがそういうなん、そういうなんだ！
588 589 「ぼくはおねえちゃんのはめはめできわむくなるのは、こゝりなんだ！」
590 591 「あなた達も、んはあへ、回じですかいね？ お手々おまえいりや、こーのばこ派持ちよくな
592 つて、んんへ、ぐだわいね？」
593 594 それで、へつんへ、はあはあへ、みんなで、こゝしょにイキましょうね？」
595 596 みんなこゝよ。
597 598 それなはいねくなじ……へ、
599 598 「はうへ、んへ、それへー」
600 599 あううへー、あへ、あへ、くんなの、で、出るへーー。
601 600 「びゅーへ、びゅびゅびゅー、びゅーへ、びゅびゅびゅー、びゅーへ、びゅーへ、び
602 601 ゆゆゆゆゆー」
603 602 おねえちゃんのいのちのこゝのめど、おねえちゃんからやうこかわいここのがでたー、
604 603 おねえちゃんのいのちのこゝのめど、おねえちゃんからやうこかわいここのがでたー、
605 604 おねえちゃん、いまいわばんわんかのこゝーー、
606 605 ううへ、やうこかわーー、
607 606 おねえちゃん、いまいわばんわんかのこゝーー、
608 607 おねえちゃんはめはめ、すうこかわーー、

- 609 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 610 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 611 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 612 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 613 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 614 「あやへ、姫やえーへほーお子種を出せよがしたが。壁に壁こ」
- 615 「えへ、はあんへ。せふ、『見ぐだれこ』」
- 616 「えへ、はあんへ。せふ、『見ぐだれこ』」
- 617 「ほくのおわんわんかふ、おねえわやふのおあんいがいなくなつわやふ……。」
- 618 「なんだかわみしこたふ、どむふひゆかのやうしこ、くんなかんじ……。」
- 619 「あれ？」
- 620 「あれ？」
- 621 「あの田こみのえふ、せふわだしてたんだ！」
- 622 「あれ？」
- 623 「私のおあんいからの溢れ出る、この田こみのえふした液体。
- 624 「これが赤ちゃんの精、精子、精液と呼ばれるものです。
- 625 「この中にも小的な種がたくせん泳いでいて、
- 626 「私のおあんいからの子宮、お腹の中にはこつてこや、赤ちゃんになるのですよ」
- 627 「そつか。
- 628 「せふ、じゅつすにおあんい、どわたんだ！」
- 629 「せふ、せふがおねえわやんじおかちやん、へへいたんだ！」
- 630 「あれ？」
- 631 「それにして、服がドロドロ。
- 632 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 633 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 634 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 635 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 636 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 637 「あ、怒りてなみこあせんよ。こいつのいじりやがみ」
- 638 「それでは孕み着はつたん脱こじ」
- 639 「それでは孕み着はつたん脱こじ」
- 640 「それからおねえわやんば、きれいなやくをぬこだ」
- 641 「せふははだかんばになつたおねえわやんのかひだをみて、
- 642 「またおちんちんがかたくしむやつた」
- 643 「だつて、やの『せふ』がおおきく、やわらかやうだし……。」
- 644 「おはだぬやぐやぐや、われいたのたんだもん……。」

- 681 しごと幅じますか、微笑ましい光景でしたでしょ?」
682
683 ああ……。
684
685 「あれから三人と数度交わり、しきりと子作りの心地よさ、そして尊いを学んでゆくへ」とが出来ました」
686
687
688 「あの子たちつたのはじめての子作りで疲れたのか寝てしまつて」
689
690 「私もつられてつた、子どもたちと一緒ににはだかんぼでお昼寝をしてしまつた」
691
692 あなただけのものだと思つていたあの柔らかな笑顔は、
693 年端もいかない子供にも向けられてくる……。
694
695 「田を覚ますと、子供たちのうち一人の子種で孕んでしまつた人に氣できまつた。
696 子どもたちを迎えてきた長者にそれを話すと、
697 今後も子どもたちにあぐわいを教えてほしいと頼まれたのです」
698
699 「私は喜んでとお答えしました。それに昼間に子どもたちにあぐわい孕むつたが出来れば、
700 リラして夜に旦那様との時間を作れますしね」
701
702 くやしく思つ心やが、奪われたような心地。
703 子供に対する心ない母生えさせではない、といつなげなしの矜持が、
704 あなたを縛り、戒め、苦しめていく。……。
705
706 「それにあの感じでしたら、次は子供四人、いえ五人相手でも同時におまんこへメハメ、
707 失礼しました。子作り講義をするいともじきそつです♪」
708
709 「これから村をより良いものにするためですものね。がんばつたいと思ひます」
710 旦那様も応援してくださりますよね?」
711
712 あなたは静かに頷いた。そういうふうに出来なかつた。
713
714 「ふふ、うれしいです。ではそろそろ、ちゅう」
715
716 「おやすみなや。旦那様」